

読書の秋です。武庫庄小学校は10月18日からの1週間を「実りの読書週間」とし、子どもたちが意欲的に読書をする事ができるようなさまざまな取り組みを行いました。19日の図書集会では、ビデオ放送で図書委員会が作ったクイズを見て、子どもたちは「これは〇〇！」と嬉しそうに答えています。また18日には、北図書館「ひまわりの会」の方々が各学級に来て読み聞かせをしてくださいました。各学年の発達段階に応じて、選んでいただいた本をみんな食べ入るように見ながら、お話を聞いていました。最後に「願い事が叶う」という魔法のろうそくを消す瞬間を心待ちにしている子どももたくさんいました。朝の国語タイムでは、それぞれが図書室で借りた本を読みました。集中して本の世界に入り込んでおり、ページをめくる音だけが聞こえる、静かで豊かな時間となりました。



読書について近頃重要視されているのが、読んだ後の「アウトプット」です。「馬の足の曲がったところがかかとだと図鑑に書いてあった」とノートに書いたり、授業の後「今日やっていたことが今借りているこの本のここに書いてある！」と嬉しそうに見せてくれたりと、武庫庄小学校の子どもたちは、本と日常生活の出来事や各教科の学習とを結びつけてよく考え、表現しています。読んで読みっぱなしではなく、その後その知識や感じたことをどう生かしていくのかがとても大切なのだそうです。

アメリカのベストセラー作家、スティーブン・キングは、自らの小説作法についてまとめた『書くことについて』（小学館）の中で次のように述べています。

「作家になりたいのなら絶対にしなければいけないことがある。たくさん読み、たくさん書くことだ。私の知る限り、その代わりになるものはないし、近道もない」

一本を読むのは「インプット」です。文章を書くのは「アウトプット」です。「たくさん読んで、たくさん書く」というのは、「インプットとアウトプットのサイクルをどんどん回しなさい！」というのと、まったく同じ意味です。

そこで重要なのは、「フィードバック」です。毎日、たくさん文章を書いてもフィードバックが得られなければ、上達はしません。インプットとアウトプットの堂々巡り、同じレベルの文章を書き続けるだけです。－

参考：樺沢紫苑「学びを結果に変える アウトプット大全」

学校では「読書ゆうびん」で本の紹介カードを書いたり、読み聞かせの後に感想を書いたり発表したりする活動を通して、「アウトプット」できるようにしています。ご家庭でも、お子さんが読んでいる本について「どんな話なの？」と内容を聞いたり、読み聞かせの後に感想を聞いたりして、話題にしていいただければと思います。